



今月号の内容

小松原法難に寄せて(1面)
石川県本土寺龍華聖徒団の布清信様からのお手紙
九州各地で一日伝道(2面)
日蓮大聖人の歩まれた道
よろこびちゃんの質問箱
法華経のお話(3面)
よろこび法話(4面)

平成25年(2013年)11月1日(金)
11月号

発行所
〒101-0051
東京都千代田区神田神保町3-25-11
九段中央ビル702
日蓮宗霊断師会九段事務所
電話 03-6272-9340
FAX 03-6272-9341

日蓮宗霊断師会

会長 新聞 智雄
編集人 松本 恵昌
購読料 1部 105円
毎月1回1日発行

日蓮宗霊断師会ホームページ
http://www.yorokobi-reidanshikai.jp
よろこび投稿メール
yorokobi@yorokobi-reidanshikai.jp

小松原法難
『正当七百五十年』
に寄せて



松本 恵昌

日蓮宗霊断師会 教宣局長
知見会信行寺聖徒団 団長
知見会海禪院聖徒団

小松原の御法難とは
文永元年(一一六四)十一月十一日の夕刻、日蓮大聖人様は檀越・工藤吉隆公の招きに応じる途上、安房国東條の郷松原大路(千葉県鴨川市広場付近)に於いて、この地の地頭・東条景信によって、後に「射る矢は雨のごとし、打つ太刀は稲妻のごとし」と述べられる大掛かりな襲撃を受けられた。

お伴のお弟子のうち鏡忍坊は殉教、二人は重傷、大聖人様御自身も頭に疵を受け、左の手をうち折られる絶体絶命の状況下、急を聞いて駆け付けた工藤吉隆公もまた尊い命を落とされる。しかし、遂に法華経守護の靈験あらたかに顕われ、大聖人様はこの窮地を脱せられたのである。
これが四大法難の一つ『小松原法難』のあらましであり、本年はその七百五十年の正当にあたる。
この法難を通して『経文に我が身符合せり』と、益々法華経所説の受持者たる確信を得られた大聖人様は、ここに「日本第一の法華経の行者」を表明されるのである。

「今年も十一月十一日、安房国東條の松原と申す大路にして、申酉の時、数百人の念佛等にまちかけられ候て、日蓮は唯一人、十人ばかり、ものゝ要にあふものはわづかに三四人也。いるやはふるあめのごとし、うつたちはいなづまのごとし。弟子一人は當座にうちとられ、二人は大事のてにて候。自身もきられ、打たれ、結句にて候ひし程に、いかが候ひけん、うちもらされていまままでいきてはべり。いよいよ法華経こそ信心まさり候へ。(中略)されば日本国の持経者はいまだ此の経文にはあわせ給はず。唯日蓮一人こそよみはげべれ。「我不愛身命 但惜無上道」是れ也。されば日蓮は日本第一の法華経の行者なり。」
(南條兵衛七郎殿御書)

「大難四ヶ度、小難は数知れず。」と云われる大聖人様の御生涯。「この法華経を受持し弘めることは、佛の在世でさえ怨嫉(おんしつ)も多く、佛の滅後においてはなおさらである(法師品)と説き、「世間の人々は怨嫉を抱き信じない(安樂行品)とも説かれる法華経のみ教えを、この日本国に初めて弘めることは、とても困難なことでした。」
それ故に大聖人様は、この国で法華経の信仰の為に迫害を受けた一人一人もいないのは、日本国の持経者(法華経の修行者)の中でこの経文の通りに修行した者が一人もいないからであり、大聖人様ただ一人だけがこれを実践されたが故に、度重なる御法難に遭われていたのであると、仰せになられたのでした。

まさしく法華経勅持品の「我れ身命を借しませぬ 但だ無上道のみを借しむ」との金言(み佛の御言葉)の通りに歩まれた大聖人様なればこそ「日本第一の法華経の行者」の表明でした。

全託(ぜんたく)の信

「法華経の行者は信心に退轉無く身に詐親(さしん)無く、一切法華経に其身を任せて金言の如く修行せば、髓(たしか)に後生は申に及ばず今生も息災延命にして勝妙の大果報を得、廣宣流布の大願も成就すべき也」(祈禱鈔送状)

法華経の行者は「祈り」が叶うのは、この『法華経』が尊く素晴らしいからであると同時に、その『法華経』に「絶対の信」を寄せる私達(法華経の行者)の一所懸命の生きざま(日々の行ない)が、尊く素晴らしいから叶うのです。
私達は、確かに「今、法華経を生きている。み佛を今、生きている。」修行半ばで大聖人様の盾となられた鏡忍坊様も、愛する妻や、やがて生まれ来るまだ見ぬ我が子に思いを馳せながらも、外護の檀越としての本分を果たされた工藤吉隆公も、きつと最期はそんなお気持ちだったでしょう。
ただひたすらに、法華経の行者たる自分を信じ大切な人の「よろこび」を願って生きる私達(法華経の行者)だからこそ、この思いは「俱生神月守」を通して、み佛から頂戴した金言(み佛の御言葉)なのだ、どこまでも信じきって参りましょう。
それが「一切法華経に其身を任せよ」の全託(ぜんたく)の信なのです。
私達の願いはみ佛の大願の一分として、必ずや三世(現在・過去・未来)に亘り引き継がれ、三世を超えて成就するのです。

第49回身延大会開催日決定!!



日蓮宗霊断師会「第四十九回全国結集身延大会」を、明年は右記の日程にて開催することとあいなりました。
この身延大会は、当会根幹となる一大事業で、皆様と共に作り上げる年に一度の、とても大切な行事です。
今後、より素晴らしい大会にすべく大会組織委員一丸となり、現在企画運営に懸命に取り組んでおります。
宗祖日蓮大聖人の魂魄おわします聖地・身延山久遠寺へ結集し、異体同心に報恩の誠を尽くしましょう。
皆様のご参加をお待ちしております。

平成二十六年
五月二十日(火)
唱題修行
二十一日(水)
奉告式

津軽宇田山 閻法寺
毎朝 5時半より「朝勤祈禱会」
毎月 最終日曜日「盛運祈願会」
〒030-1403
青森県東津軽郡外ヶ浜町平館元宇田52-2
TEL 0174-25-2712
住職 工藤 堯幸
副住職 工藤 堯慎・修徒 工藤 堯顯

妙正寺聖徒団 市川禮子
旭川FMリベールFMラジオ 83.7MHz
「マダムケロのちよこ長話」
11月6日、25日午前11時より
インターネットでも聞くことができます
サイマルラジオから
旭川FMリベールをクリック
11月17日(日)午前8時30分
だい かいしゅうどうしんごうしんごうこうしゅうかい
第10回清道衆信行講習会
毎月1日午前10時 盛運祈願会
妙正寺聖徒団 団長 関 龍雄
〒071-1423
北海道上川郡東川町東町2丁目6-3
TEL 0166(82)2714 FAX 0166(82)2914

いかされるよろこび
美濃乃國
常唱寺 聖徒団
〒501-3734
岐阜県美濃市千畝町2738-2
TEL/FAX 0575(33)1430

山佐野 妙顕寺
天目聖人御報恩
平成屋根等大改修
ご寄付募集中!
●郵便振替
口座番号 00180-6-267327
口座名義 妙顕寺建設委員会
〒327-0843 栃木県佐野市堀米町264
TEL 0283-22-1524
FAX 0283-22-4194
http://www.sano-myoukenji.jp

日蓮宗霊断師会会長
感通寺聖徒団団長
新聞 智雄
〒162-0044
東京都新宿区喜久井町39
TEL 03-3209-8782
FAX 03-3208-7966

石川県本土寺龍華聖徒団の

布清信様からのお手紙

日蓮宗霊断師会御中

石川県本土寺龍華聖徒団の布清信様より、当会にお便りを頂きました。布清信様は石川県七尾市において「ぬの仏壇店」を営んでおり、当会の聖徒でもあり、俱生神月守も着帯しておられます。

この度日蓮宗大本山正中山法華経寺に、「立正安国論」を収蔵する為の厨子(仏像・仏舍利・教典・位牌などを中に安置する仏具)を、同郷の職人さん達と共に完成させ、無事法華経寺に納められました。

布様の当会に対する温かいお力添えの言葉を紹介致します。

霊断師各位の皆様には、ご無沙汰しております。私は石川県本土寺龍華聖徒団の布清信です。平成六年より身延大会に参加させて頂き、絶えることなくお参りし、補佐員も務めさせて頂きました。去年、能登本山妙成寺の塔中寺院にて、はじめて「よろこび」を見せてもらい安堵致したものです。紙面には執筆される皆様方との思い出が溢れ、そして教養の深さを改めて勉強させて頂きました。さて、同封いたしましたコピーは石川県の地方紙です(北國新聞掲載記事参照)。正中山法華経寺の新井日湛貫首様より直接のおおせつけにより約十カ月のお仕事になったものです。

のです。

詩絵を描いて下さった山崎さんにも本土寺聖徒団のお一人です。二人で一緒に霊断師会本部にて研修させて頂いた事もありました。地元紙に載せてもらってからは反響も沢山ありました。かなりの方からお手紙をいただきました。二か月たった今でも祝福を頂いておりますし、新聞をしながら祝福して下さいました。

私は貫首様よりお仕事を依頼されてより、一日も欠かさず「妙行日課」を一日一章拝読し、今日まで続いております。また、仕事の途中、昨年度のNHK法華経口座を録画して、幾度となく繰り返し返し拝聴しながら仕事を進めさせて頂いていただきました。立正大学 仏教学部の北川前肇先生のことです。一度当地にも出講さ

れ、拝聴した事もありました。なにはともあれ、全国的に有名な仏具店が仕事される事が当たり前なのですね。それこそ想定外のことだと思いました。私自身、このお仕事は大変恐ろしいという言葉があてはまるかは分かりませんが、それこそ数百年は伝わって思っています。こんな私がさせて頂いていいのだろうかとお問自答しながら、俱生神月守を着帯し、祈る気持ちで日々仕事に励みました。

中山法華経寺での厨子お披露目には、かつての石川県加賀藩主の前田家当主夫妻も参列されており、当寺との関わりの大ささというものも感じ、目頭が熱くなりました。お世話になった各上人さんに御恩の一旦でもお返し出来ればと筆を執りました。

日蓮の国宝 立正安国論 納める

能登の匠 厨子制作

七尾仏壇、輪島塗輝く



3月14日付 北國新聞

何百年も伝わるであろう布様の大事業、まさに俱生神月守の御守護の賜であったと存じます。お釈迦様の、そして日蓮大聖人様の教えを未来永劫に伝えていく事に繋がるお便りでした。

〜皆様のお便り・体験談を お待ちしております。〜

記事は左記までお願い致します。

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町三二十五-11
日蓮宗霊断師会九段事務所
TEL 03-6272-9340
FAX 03-6272-9341

九州各地でお施餓鬼法要に併せ

一日伝道開催

八月七日、宮崎県延岡市本東寺

聖徒団(吉田海心団長)に於いて、お施餓鬼法要に併せ、本部より当会副会長・吉田亮善講師が出向し、一日伝道が開催された。

この法話を毎年吉田講師にお願いしている同寺院では、十二年目となる今年も人が人を呼び、当日は吉田講師の法話を心待ちにしていた二百名を超す聖徒で檀信徒会館が埋め尽くされた。

吉田講師はお題目の有り難さ、大切さを、病を乗り越えた自身の体験を披露してわかりやすく熱く語られ、檀信徒一同、感動の一時間となった。

翌八月八日には、同じく宮崎県都農町龍雲寺聖徒団(吉田憲由団長)に同講師が出向し、一日伝道

が開催された。

聖徒の白水さん、海野さんは「本当に法要にきてよかった。吉田先生のお話を聞いて心から感動しました。先生のお話を通して来年生まれ変わる本堂にお別れが言えました」と話していた。

また八月十六日には、宮崎県南町智浄寺聖徒団(片寄智雄団長)に吉田憲由講師(本部・聖徒部長)が出向して一日伝道が開催され、今年も宮崎の夏のお施餓鬼法要に、「一日伝道」という信仰の大輪が盛大に花開いた。



▲吉田亮善講師(本部・副会長)

智浄寺にて「お施餓鬼法要」



俱生神月守・

霊断法のご案内

◆人にはみなそれぞれ「人生」という道がある。しかしその道の先はよく見え、地図もない。この先には大きな河が横たわっているかも知れず、大岩が障害物となつているかもしれない。人は誰もそれに気づかず「今」のみを飄々と歩く。そして河に阻まれ打ちひしがれ、大岩の前に愕然とする。◆私たちが日蓮宗聖徒団には九識霊断法という秘法があります。◆これは俗に言う占いの類とは違い、日蓮大聖人のみ教えから生まれた有り難い秘法です。◆カーナビのように河や大岩など人生の中で進むべき道を阻む障害物を見通し、その迂回路を指し示し目的地へと導いてくださいます。

◆また聖徒団には俱生神月守という不可思議な御守があり、河の前には橋となり、大岩の前には梯子となり、困難を乗り越える力となつて護つて下さいます。◆難病を癒す不思議な護符もあります。◆充実した人生を歩むため、最寄りの聖徒団のある寺院、教会、結社へお出かけください。

第三十九回 日蓮大聖人の歩まれた道

鎌倉での修学(その六)



総合研究所
教学研究部長
小泉 輝泰

「延應元年三月小十七日丁亥。六波羅の使者参著す。去る二月廿二日、隠岐法皇遠嶋に於て崩御す。御年六十。同じき廿五日葬り奉ると云々」
(吾妻鏡 第三卷)

蓮長が鎌倉入りをしてより一年が過ぎた頃、鎌倉にある知らせが届きました。それは隠岐にて流罪の身となっていた後鳥羽院の崩御の報でした。

承久の乱より始まった後鳥羽院の流人生活は、実に十八年の長きにわたるものでした。院は、以前にご紹介しました『後鳥羽院置文』にしたためられたように、ご自身は決して怨霊となつてこの国に仇なすようなことはしたくない・・・と念じておられました。それでも院の蒙つた長き流罪のつらさを思えば、その魂は必ずや怨霊となつて災いをもたらすであらうと、当時の人々は誰もが恐れおののいたに違いありません。

それを証明するかのように、鎌倉では次々と不思議なことが起こり始めました。院崩御の訃報を聞いた執権北条泰時は、間もなく精神が錯乱し長く苦しむこととなります。続いてその年の暮れには、幕府の重鎮であった三浦義村が脳溢血で頓死すると、それから一月ほど過ぎた翌年一月二十四日、執権補佐である連署の職にあった北条時房も、早朝に突然発病し、そのまま夜半には急死してしまいました。

泰時はかの有名な信州善光寺に六町六歩(約二万坪)もの水田を寄贈して、絶える思いで阿弥陀佛に當病平癒を祈願しました。しかしその願いも虚しく、精神錯



終えることとなってしまったのです。

泰時を始めこれらの人々は、皆承久の乱にて活躍をした大将たち、言い換えれば後鳥羽上皇を追い落としした者たちです。鎌倉市中では「次々に起こる災いは、後鳥羽院の怨念に相違ない」と、大いに話題となって広まりました。奇しくも鎌倉にて修学中であった蓮長も、怨霊を恐れる人々の姿や様々な噂話を、当然毎日のように見聞きすることとなるのです。

乱の苦しみが癒えぬまま、仁治三(一二二四)年六月十五日、六十歳にて生涯を

イラスト 小川けんいち

よろこびちゃんの質問箱



よろこびちゃん

どうして団扇太鼓を叩くの？

うちわ太鼓を叩いて歩くのは日蓮宗のお坊さんの特色のひとつですね。

皆さんもお寺の行事で一緒に叩いたことがあるかしら？

お題目の声を揃えるために叩く、というのはもちろんあるけれど、お堂にいる私たちだけではなく、より多くの人たちにお題目の響きと功德を届けるためなのよ。お釈迦様の時代に「毒鼓(どくこ)

く)の縁」という話があるの。

その昔、すぐく悪い人がいて太鼓に猛毒を塗り、その太鼓をバチで打つと毒があまりにも強力なために、音が耳に届いた人達はみんな死んでしまったという話があったわ。聞く気がなくなった人も死んでしまつほどの毒をまき散らしたんですって。こわいわね。

この話を日蓮宗のお坊さんが逆にたとえて、うちわ太鼓にお題目を書いて、打つて響かせ、皆んなにお題目の仏縁を与えていけると説いたの。聞く気のあった人もなかつた人も耳から仏法の功力が入って、人だけではなく動物も植物も成仏させていくのよ。すぐいでしょ。

皆さんでうちわ太鼓とお題目を響かせて、幸せな世界を作ってくださいましょ！



よろこびちゃんへの質問募集中!

法華経のお話 27

総合研究所主任

塩入 幹 丈



無量義経の段十三年十一月

大轉輪王小轉輪王。金輪銀輪諸轉輪王。(無量義経徳行品第一)

①「黙れ！今の俺を昨日までと同じに思ふなよ！」
(剣鉄也)

智顛禪師は滅後に天台大師と呼ばれるようになり、最澄上人も、その滅後に傳教大師の名が贈られました。かように私たちが歴史上の人物の名前だと思つているものには、実は本人の生前中の名前ではなく、その死後に付けられたものも多々あるようです。

一〇〇パーセントそれに当たるのが、日本の天皇陛下でしょう。

私たちが歴代天皇一覽で知る御名は、まず全てが、その業績に因むかあるいは、お住いになられた場所に因んで崩御後に付けられたものです。

殊に、御遺文(大聖人の著述の総称)でもお馴染みの、神武天皇・神功皇后・応神天皇・崇峻天皇等、古代の天皇(神話の世から奈良時代初期までね)の御名に至つては、奈良時代後期にまとめて贈られたもの。

ご本人の時代から早い方でも数十

年、初期の天皇に至つては崩御後、数百年も後になって作られた名前なわけですね。

ですから、たとえば「大化の改新を断行された中大兄皇子は、即位して天智天皇になられた」や「天智天皇の御子の大友皇子を、壬申の乱で打倒された大海人皇子は、即位して文武天皇となった」等といった、よく聞くような説明も、厳密には違つたよ、なんです

ね。

②死者にたいする最高の手向けは、悲しみではなく感謝だ(ワイルダー)

お隣の震旦の王様が皇帝で、御遺文でもお馴染みの方々と言えば、団体異心の残念な大軍の長たる殷の紂王、異体同心の精銳を率いた周の武王、ロイヤルガードに守られたるバルパティーン

よろしく、四皓に囲まれし漢の恵帝、そしてあの世界三大美女の一人、楊貴妃のお相手だった唐の玄宗等でしょうか。

実はこの方々のお名前も、やはりその崩御後に贈られた名前。紂王は子辛、武王は姫昌(なんかギャップが凄いですね)、恵帝は劉盈、そして玄宗は李隆基が生前のお名前です。

そう、亡くなった後に生前とは違う名前を贈るのは、どうやら東亜細亜共通の伝統なんです。(ていうか、ここ震旦から始まつたんでしょ！)

③俺は中華を統一する最初の王になる(嬴政)

しかし流石に四千年以上の歴史を誇る震旦だけに、時にはこの伝統に異を唱える人も出てくるもの。

それが春秋時代・戦国時代と続いた戦乱を勝ち抜き、遂に震旦初の帝国を

打ち立てた、秦の始皇帝。

なにしろ、気に入らない本は全て焼き捨てるという、閲覧制限も真っ青なことを断行し、あまつさえ学者本人たちを縛めて生き埋めにしちゃう前代未聞の改革者。

彼自身の本当の名は嬴政ですが(キングダムでお馴染みですね)、自分の崩御後に勝手に名前を変えるのは怪しからん、自分が最初の皇帝なんだから始皇帝でいい、次からは二世、三世と付けていけばいいだろうと、名前の変更をやめさせてしまったのです。(しかし彼は帝位に就いてからは、単に皇帝と呼ばれていたのですから、結局は皇帝から始皇帝に変わつてくるんですよ)

しかし、そんな秦も、始皇帝の左道(悪政)ゆえに、その崩御後にあっさり崩壊したことは、皆さんご存じの通り。伝統への挑戦もあえなく崩れ去つたわけですね。

そうなんです、亡き方を偲び、死後に新たな名を贈つて供養することは、東亜細亜のいわば伝統。

死んだ後に戒名法名を付けるなんて間違つていて、なんて言い方も、昔からよくよくあるものですが、実は死後の戒名法名は、佛教の教えと東亜細亜の伝統(それも元々は一部の文化だけの特権だったもの)のハイブリットなんです。

イラスト 小川けんいち



よろこび法話

「亡き曾祖父への感謝と決意」



日蓮靈断師会 教高 員
大分県杵築市妙経寺聖徒團長

後藤 正軌

今回は私の子供3人のうち、長女さくらの話を致します。今年中学一年生になるさくらは手紙を書く事が大好きで、誕生日や記念日には必ず、口に出してはなかなか言えない素直な思いを文に認めてくれます。ある日、庫裡のお仏壇を掃除していた時の事です。香炉の後ろから小さな手紙が出て来ました。そこには小さな字で「ひーじいちゃんへ ひ孫のさくらより」と書いてあり、厳重に封印がしてありました。その手紙を見て、子供達と曾祖父の話をした事を思い出しました。以前、古いアルバムを開いたとき、そこには軍服を着て腰に刀を差し、馬に乗っている曾祖父の姿がありました。曾祖父は今から二十年前にご遷化されており、子供達は逢うことが叶わなかった曾祖父の話を



娘から曾祖父への手紙

口々に訊ねてきました。私は「ひーじいちゃんは騎兵隊で戦っていたんだ。部隊が全滅するような悲惨な戦いを何度も生き延びてきたんだよ。でもひーじいちゃんは何も戦争の話をしてくれなかつたんだ。きつと、戦争でとつても辛く、厳しく、悲しい思いをしたんだね。」

「だからひーじいちゃんは日本に帰って来てから一所懸命に南無妙法蓮華經の御題目をお唱えして、亡くなった人達を供養し、生きてる皆が幸せになれるようにお参りを続けたんだ。」

「お前たちはお仏飯で育つたんだから、ご先祖様に感謝してお参りする事はもちろん、ひーじいちゃんの思いを受け継いで皆にお題目を弘めて、この世の中を良くしていく事をしないとイケないんだよ。」と話しました。

さくらはこの話を聞いて、早速曾祖父へ手紙を書いてそつとお仏壇にお供えしたのでしよう。子供ながらの感謝と決意の思いを込めて・・・。

時が経ち、さくらは中学生になり、バレーボール部に入部しました。毎日夜遅くまで練習して帰ってきます。



必勝祈願の様子

つい先日バレーボールの地区の試合がありました。試合当日早朝、バレーボール部の部員一同が妙経寺に集まりました。さくらの呼びかけで必勝祈願に訪れたのです。

私は開運勝利の毘沙門天様の前で勝利の御祈願を行い、共に南無妙法蓮華經と御題目を唱え、皆に俱生神月守を渡し、こうお話をしました。

「皆さんは今まで一所懸命に練習してきました。落ち着いて日頃の成果を充分に発揮できるように毘沙門天様と俱生神様にご祈念致しました。毘沙門天様・俱生神様は、常に皆さんを見守って後押しして下さいます。精一杯頑張ってください。結果は必ずついてきます。」

結果、バレーボール部は見事二十年ぶりに地区優勝し、県大会に出場する事が出来ました。

試合後は、部員全員で自発的に妙経寺に来山し、「ご祈願のお陰で優勝する事が出来ました。ありがとうございます！」と口々にお礼を述べ、月守をこれからも毎月着帯していくという子が五人も現れました。

日蓮大聖人様は、
「諸仏の眼目たる妙法蓮華經の五字、末法の始に一閻浮提にひろまらせ給ふべき瑞相に日蓮さきがけしたり。わたうども二陣三陣つづきて、迦葉・阿難にも勝ぐれ、天台・伝教にもこへよかし。」
(種々御振舞御書)

と述べておられます。日蓮大聖人様が先陣を切られた御題目弘通の志は、時代を超えてお祖師様からひーじいちゃん、そして子供達へと脈々と受け継がれているのです。

さくらにとって、まだ小さな「行い」ではありませんが、この積み重ねが真の仏国土の顕現へと繋がっていくのです。

聖徒の皆様も是非、周りの方に「俱生神月守」の着帯をお勧めし、「南無妙法蓮華經」の御題目を弘め、救いの手を差し伸べて頂きたいと存じます。

それは皆と共に自身も大きな幸せに包まれる第一歩となるはずです。



お礼に来山した部員の皆さん

砥森山 法華寺

生きて救われの道場

住職 阿部 是秀
副住職 阿部 是眞

〒028-0304
岩手県遠野市宮守町下宮守31-69-1
電話 0198-67-3166
FAX 0198-67-2227

正立山 妙法寺番神聖徒団

団長 新聞 信應

毎月1日 10時
盛運祈願祭

お困り事はすぐ相談

神秘秘密の扉が開く時、必ず利益がいただける。

〒690-2404 島根県雲南市
三刀屋町三刀屋1169
TEL 0854-45-3657
FAX 0854-45-3666

安房乃國隨一 三十番神祈願道場

顕本寺聖徒団

団長 小泉 輝泰

「1人で悩まず、まずは相談」

〒295-0002
千葉県南房総市千倉町川合690-1
TEL 0470-44-1062
FAX 0470-44-1524

信用第一の専門店

◇格調高い関東風仏具◇

宗務院指定

仏壇・仏具 仏像彫刻
内陣荘厳具 設計製作

(株)中野三佛屋

東京都台東区寿2丁目7の12
電話 03(3843)6951
FAX 03(3843)6973
定休日 日曜日

北海道運輸局長
認証工場(第4-1095号)です!

お車のことなら
どんなことでも!!

車買取のE-ス
T.0166-34-3606

(有)キクチ自動車
〒078-8346
北海道旭川市東光6条6丁目190-100
TEL/FAX 0166-34-3606